

ロッキード事件 有力閣僚に聞く

聞き手・毎日新聞政治部長 江口 宏

三木内閣の蔵相時代の発言。ロッキード事件について、その実態を冷静に見極め、法に照らして主体的に処置すればよいとし、最後は国民の良識に期待している。江口氏は現在、下野新聞社会長。

法に照らし処置

ロッキード事件をどう受けとめるか。

大平蔵相 こういう問題が起きたら、まず冷静にどういう事件かを見極めなくてはいけない。対応を誤らぬようにしないと民主主義をおかしくしてしまう。いま、全体としての対応ぶりは少し浮足だっている。何があったのか、幾つかの“点”がでてきているがピクチャー（画像）全体を少しふくらみをもっていっぺん、再構成しないといかんのではないか。米国からいろいろ材料が出てきたのだから、これをわが国の法に照らして主体的に料理していけばよい。

三木首相は解明に時間がかかるかといっているが。

蔵相 国際的刑事事件だから、ちよっと手間がかかるかも知れんネ。

政治がからむ事件は過去の例をみても結局、うやむやになるといふ感じを国民はもっている。

蔵相 中途半端に終わると判断するのはそりゃ独断だ。例えば、国税庁、警察庁でも同じだが、国税でいえば税務官五万二千人が納得できなくてはいかん。うやむやにやるなんて出来ない。上から止められて、もっとやりたかったが、やれなかったというんでは国税の組織はもたんヨ。田中金脈の時だってそうだったもの。刑事事件がからむとなると検察と毎日、相談しながらやるわけであり、また会計検査院という別の権力も入ってくる。中途半端なんかにしていない。そんなことでは政府の存立の意味がなくなるじゃないか。

しかし、吉田内閣時代に犬養法相が指揮権を発動し、捜査はストップした。

蔵相 指揮権発動ネ。そりゃ、ないだろう。

ロッキード事件で保守党の中にあつた暗い影が一挙に表面化したともいえるが。

蔵相 自民党という政党は間口が広い。一局面にそついう点もあった。しかし、「自民党はそういう体質である」とカテゴリーカル（無条件）に決めつけられると党は非常に迷惑する。ただ、今回は「政府高官」がかかわっているという。政治の権力とかわり合いをもっている自民党が批判のマトになるのは当然だ。政府と自民党との関連を説明し、評価し、批判していくためには冷静、沈着に実態を見極めなければならぬ。

三木さんは大平さんに「キミは大丈夫だろうネ」と言ったとか、言わなかったとか。

蔵相 そんなバカなこと……キミあるもんかネ。（大笑い）つまり、まあ、世間では大平正芳など余り可愛らしい顔をしていないから、何かどこかに落度がないかと思つて……ウィッシュフル・シンキング（希望的観測）だと思つがネ。それが残念ながら（何も）ないんで困つちゃうんだ。

ただ、保守政界の中には、一種のワイロ政治が横行してもそれが常識であるという空気があったのではないか。

蔵相 つまり社会的なあいさつというか、交際はどの程度のものが常識的で妥当か。政治家は考えていると思う。戦後の経済繁栄の中で「水位」があがってきて批判されても仕方ない面もあるだろう。しかし、それとワイロ、不正な金品の授受を一緒にされると困る。

自民党内に一つの黒い点が出てきたとき、それを排除する肅党能力はあるだろうか。

蔵相 さあ、その時は、もはや司直の手に移っているわけではないか。確かに党の規律は相当、衰退しているが。

自民党総裁選の時にも相当のカネが流れた。ロッキード事件にしても、目的のためには手段を選ばずという社会的風潮を作ったのは、自民党政治だという反省が必要ではないだろうか。

蔵相 この事件、仮に相当のカネが不正に流れたとすれば、まずそれが問題になったということが民主政治の力であると思う。第二に、腐敗、不正を徹底究明しようというだれも抗し得ない勢いが米国にもあれば日本にもある。人間社会を健全に維持していくうえに非常に大きな力だ。「エライことになった」「日本の民主政治もこれで終わりだ」なんて感情的にならず、ステップを踏んで有終の美をなすことが第三だネ。それが政界、経済界に対しても頂門の一針になっていく。民主政治は結局「事実」は事実としてわかるんだ」という点に健全さがあり、とにかく事実を究明していくことだ。

米議会にみるような果敢な事実究明をやりうるだろうか。

蔵相 日本民族全体の「力量」にかかってくる。ローマ、ギリシャの歴史を考えても最後は国民だ。政府が悪い、悪いといっているが、財界人だって自分のところに問題がないとは思っていないだろう

し、政治家を選ぶ側の国民もそれなりに自覚している。それが「力量」だ。「力量」以上の解決は難しい。しかし、それ以下の解決は困る。日本人は相当の判断力、バランス感覚をもっている。私は、まづい解決はしないと思う。三木さんも首相の重荷に耐えかねているようだが、背後には一億一千万人がいる。最後にはそれが三木さんの味方だし、余り心配はいらないのじゃないかな。

衆院解散をどうみるか。

蔵相 それより前に、政局がもたなくなるという場合、解散が総辞職の二つの道しかない。ロッキード事件への対応、国会運営などともかく三木政権が何とか耐えていけば、景気も立ち直るとか事件のほうも山の姿がだんだん明らかになってきて処理の道筋もがっちりついてくる。そんなゆとりをもつて解散時期を選びたいだろうが、そういう時まで事態を引っ張っていけるかどうか、三木首相の指導力いかなかな。